

社団法人心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>星野 悦子 (ほしのえつこ)</p>	<p>所属</p>	<p>上野学園大学音楽・文化学部</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>音楽心理学研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 15名 (うち認定心理士 1名) 非会員 6名 (うち認定心理士 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>1、本研究会では例会を2か月に1度の割合で行った。本年度は以下の通り、実施した。例会の内容はおもに以下の英語原典2冊を講読して内容を議論することである：</p> <p>1) "The Psychology of Music. 2nd edition", 2) "Cognitive Neuroscience of Music".</p> <p>① 2009年 5月 9日 第24回例会 ② 2009年 7月 4日 第25回例会 ③ 2008年 9月 26日 第26回例会 ④ 2009年 10月 31日 第27回例会 ⑤ 2009年 12月 19日 第28回例会 ⑥ 2010年 2月 27日 第29回例会</p> <p>2、集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>日本心理学会第73回大会 (於：立命館大学) においてワークショップを研究集会と位置付けて、平成22年(2010年)8月26日に実施した。内容は以下のとおりである。 テーマ：「音楽心理学研究の現在と未来～多様化するアプローチをめぐって」 内容：趣旨説明1件(企画代表者：星野)、話題提供4件、指定討論者1名(山崎)、司会者2名(佐藤、生駒)、フロアの出席者47名。 話題提供のタイトルと提供者名を記載する。「音楽演奏の主観的評価に影響を及ぼす要因」(羽藤律)、「音楽の脳機能研究：絶対音感研究を中心に」(宮澤史穂)、「音楽情報の潜在記憶研究」(上田紋佳)、「時系列データによる音楽聴取時の感動へのアプローチ」(安田晶子)。これらの予稿集を兼ねた「音楽心理学研究会論文集」を出席者全員へ配布した。 音楽心理学という領域では多彩なアプローチがなされている。それをテーマに掲げ、研究会員がそれぞれの専門領域から自身の研究に基づき具体的接近法と成果を報告した。学会員の広い関心と呼び込み多くの聴衆の参加があった。 次年度には、日本心理学会第74回大会でのワークショップとして研究集会を企画している。</p>		